

縄文人は
どこからきたか？

北の縄文連続講座・記録集



縄文人はどこからきたか？「目次」

Session

1

■特別講義

縄文人はどこからきたか——DNA研究で見えてきた日本人の成り立ち

国立科学博物館人類研究部 篠田謙一

6

Session

2

■第1講

ヒトの骨からわかること

日本大学松戸歯学部専任講師 五十嵐由里子

50

■第2講

東南アジア人類史からみえてくる「縄文人の起源」

札幌医科大学医学部解剖学第二講座准教授

松村博文

76

Session

3

■最終講

土偶のワキはなぜ甘い——土偶に知る縄文の精神性

伊達市噴火湾文化研究所所長

大島直行

138

あとがき

講師プロフィール

154
156

■特別講義

縄文人はどこからきたか——DNA研究で見えてきた日本人の成り立ち

篠田謙一 国立科学博物館人類研究部

国立科学博物館の篠田です。私は、中学校は苫小牧、高校は札幌と北海道の出身です。現在は、国立科学博物館というところで、人類学の研究をしています。今日のテーマであるDNAの話の難しいと感じられる方も多いと思いますが、今日は、なるべく易しく解説しますので、肩の力を抜いてお聞きください。

ペルーの村の碑オハイシ

オーブニングを、どのような話から始めようかと考えましたが、「縄文人はどこから来

たか」というテーマですので、道の写真を選んでみました。

私は、最近では中南米での研究をかなりの時間をかけてやっています。この写真は、ペルーのアンデス地方の海岸にある砂漠のなかの一本道です。南北に3千キロ位伸びたパンアメリカンハイウェイという道が荒涼とした大地を走っています。

今から数年前ですが、ペルーの北海岸をずっと車で走ったことがあります。ペルーの首都のリマから北へ約200キロのところにエル・アンヘル（天使という意味）という村があるのですが、そこに一つの碑が建っていました。よく見ると日本語が書いてあります。もちろん現地の人には読めません。不思議な碑です。あとで聞くと、これは沖縄からの日本移民が初めてペルーに来て、この地に上陸したことを記念して建てられたという碑でした。裏を見ると、沖縄の36名が最初に上陸したと書いてあり、金城さん、屋良さんなど、沖縄特有の名前が書かれていました。

この碑はペルー移民75周年を記念して建てられたそうです。今年はペルーの日系移民120周年になります。今、ペルーに10万人以上いると推定されている日系人のうち約8割は沖縄出身ですので、まさにこの碑は、彼らのルーツを表しているものなのです。

日本人移民が最初にペルーに渡ってから75年という年は、おそらく一世の人は亡くなり、二世の人も年をとられ、そろそろ全体が三世になるという時期です。その頃になると、自分たちのルーツがだんだんわからなくなります。四世、五世の人々になると、もうスペイ

いいのかという複雑な問題はありますが、南の方にとどのような人がいたのか、ということを知るきっかけにはなり、今後の研究が待たれます。これが人類学の最新情報です。

縄文VS弥生

縄文時代になるとたくさんの人骨が出てきます。全国に作られた貝塚が、人骨の保存に適していたからです。その後、続く弥生時代には甕棺かめかたという大きなカメに人骨を入れて埋葬したので、そちらもたくさん骨が残りました。そこでこの縄文から弥生に時代が変わったときに何が起こったのかということが、日本列島の成り立ちを考えるうえで非常に重要な研究課題になりました。

骨だけ眺めてもあまり面白くありませんので、図4を見ていただきたいと思います。これは、今から5年ほど前に私たちの博物館で開催した特別展で、縄文的な顔をしたモデルの女の子と弥生的な顔をしたモデルの女の子を並べて作ったポスターです。展覧会も「縄文VS弥生」というすごいタイトルにしました。

縄文人(左)は今のアイドルに近い顔で、弥生人(右)がいわゆる北アジアの人間の顔、日本列島と中国や朝鮮半島に非常にたくさんいるような顔です。この二人を選ぶのにはけっこう苦労しました。モデルさんを十何人も集めて朝からオーディションを行い、たとえば

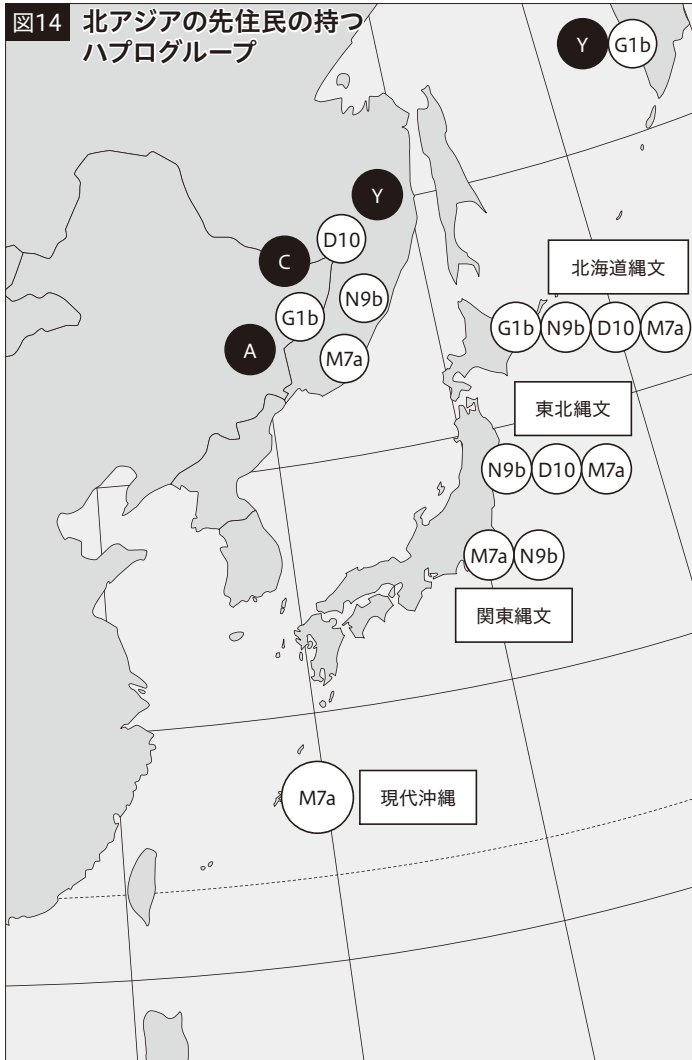
縄文の女の子は二重まぶたでなければいけないとか、耳たぶが垂れていなければいけないというところをチェックしました。弥生の女の子は耳たぶが全然ないのですが、なぜかおわかりですか？ これは根拠になるかどうか問題もありますが、縄文時代の遺跡からは出てくるイヤリングが、弥生の遺跡からは出てこない。ですから、弥生人は耳にイヤリングやピアスができなかったのだろう、ということを根拠にしたのです。

二重構造説

日本列島人の成立のシナリオに関しては、この両者の関係をどうとらえるかで「縄文・弥生論争」と言われる論争がありました。が、今はいわゆる「二重構造説」で説明



国立科学博物館「縄文VS弥生」のポスター



そう思う一つの理由は、このタイプは本土の日本人に出てこないからです。沖縄には全く出てきません。これが古い時代に入ってきているならば、ある程度は滲透して全国から出てくるはずだからです。

次に、東北の縄文人です。20例位分析しましたが、面白いことに東北の縄文人にはいろいろなタイプが出てきており、北海道の縄文人が持つ北のセット四つのうち、N9b、D10、M7aの三つを持っているのです。関東まで行くとN9b、M7aの二つになります。これが全部北から降りてきたのかと考えるとそうではなくて、M7aは現代沖縄の人々に圧倒的に存在していますので、南からの遺伝子だろうと考えられます。

本日の会の主催者が「北の縄文文化」という言い方をしていることは、確かに言い得て妙だと思います。縄文人を全体として均一と考えては本質を見誤るかもしれません。北には北の縄文人がいる、本州には本州の縄文人がいる。全体を通して言えば、ある程度はつながりがありますが、それぞれが特徴を持っていて、北の縄文人の特徴は沿海州や樺太、千島など、北方の影響も受けているだろうと考えられるのです。

私たちは、自身が持っている日本人のイメージをもう少し複眼的に見ることが重要です。そういう意味では北の縄文人にフォーカスを当て、その人々がどのように成立したのか、どのような発展をし、どのように現在のアイヌの人々になっていったのかを考えることは、非常に重要だと思います。

■第2講

東南アジア人類史からみえてくる「縄文人の起源」

松村博文

札幌医科大学医学部解剖学第二講座准教授

私は、いつもは医学生に人体解剖学を教えているのですが、そのかたわら人類学の研究を行っています。今日は、縄文人の祖先が一体どこから来たのか、という話をさせていただきます。

1. 南の要素が強い縄文人

今日は縄文人に最も似ている頭骨をご紹介します。一つは虻田町の高砂貝塚から見つかった縄文時代の頭骨。もう一つがベトナムで出土した、約7千年前、ちょうど旧石器か

ら新石器時代のレプリカ人骨です。これは誰が見てもそっくりで、非常によく似ています。日本の人類学者がこのように並べたことは今までないと思います。

縄文人の起源には様々な説がありますが、最近はミトコンドリアDNAから、北東アジアの要素が混じっていることがわかるなど、いろいろなことが少しずつ明らかになりつつあります。形態も含めて総合的に解釈すると、縄文人は東南アジアの系統と、北東アジアの系統が混血していると考えるのが合理的に思えます。ただ、どちらかと言うと、やっぱり南の要素が強いようです。

なぜかと言うと、縄文人は身体的に手や足が長く、顔が立体的などの特徴があります。北東アジアの人は顔が非常に扁平で、四肢が短い人が多いのですが、そのような北東アジア人の要素が見られません。どちらかと言うと南の特徴を強く示しており、その南の要素を探るうえで、私はアジアの先史時代の人々の骨をいろいろ調べてきました。そこで、だんだん見えてきたことがあります。

2. 日本人の起源に関する「二重構造」

最初に予備知識として、日本人の起源に関する「二重構造」という話をまとめておきたいと思います。

図1 縄文人と弥生人の顔の特徴



弥生顔の復元図



縄文人顔の復元図



弥生人頭骨



縄文人頭骨

出典：IPA「教育用画像素材集サイト」<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>

縄文人と弥生人の頭骨を比べてみますと、弥生人のほうが、細面で面長で、鼻の付け根が非常に平坦で、のっぺりしています。それから眼窩という目のソケットですが、縄文人は長方形で角張っていますが、弥生人は円に近い形をしています。それが縄文人と弥生人の特徴の違いです。

それを復元すると、弥生人は、一重まぶたで目が細くて、ヒゲなども薄くて、のっぺりした顔になります。縄文人は彫りが深く、四角っぽい顔で、鼻が非常に高く、眉間が盛り上がっている。こういう顔が縄文人です。

日本人は、この縄文人と弥生人の二つの系統から成り立っています。

もうお亡くなりになった埴原和郎先生が提唱した「日本人の二重構造モデル」に書かれています。縄文系が日本全国に分布しているところに、弥生人が西日本を中心に、中国大陸から、あるいは朝鮮半島から入ってきて、その後古墳時代にいたっても、大陸から次々と渡来人が来て、徐々に南北に広まっていった、というのが「二重構造説」です。このような日本人形成モデルは、今の学会ではほぼ受け入れられた定説となっています。

3. 東南アジアにも「二重構造」が

さて、二重構造は日本だけの現象かと言うと、そうではありません。